

## 第50回日本てんかん学会学術集会

開催されました。

めっきり秋めいてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。秋は、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋などいろいろ言われますが、病院では学会の季節ですね。

2016年10月7～9日、グランシップにて第50回日本てんかん学会学術集会（会長:当院 井上院長）が開催されました。職員の皆さんも自己研鑽の為、多くの方々が参加されたのではないのでしょうか？先生方も座長・演者として大変お疲れ様でした。看護部からは下記3名が演者として出席しました。

★豊泉三枝子副看護師長

【市民公開講座】てんかんをよりよく理解するために

★原 稔枝副看護師長

【シンポジウム】包括的てんかん外科治療における看護のかかわり

★山口規公美副看護師長

【シンポジウム】てんかん看護における中堅看護師育成の現状と課題

市民公開講座では、てんかんに関わる市民の方々が熱心に聴講されている様子が伺えました。

各セッションでは、活発な質疑応答がされており、中堅看護師が自信をもって看護を行う中で、新人看護師教育に携われるような教育の大切さを理解しました。また、外科看護での包括的なかわりの大切さを、他病院でも感じていながら実施できないところが多いことが分かるとともに、当院が牽引しているてんかん看護を感じる事が出来ました。

てんかんの患者さん方の作成した作品を展示した素晴らしいアート展も拝見させていただき、“芸術の秋”を堪能させていただきました。

### 今月の編集者のつぶやき（石原）

学会では、毎度偉大な先輩方が築き上げた当院のてんかん看護のすばらしさを感じる事が出来ます。守ることは守り、新しく取り入れることにも十分目を向ける事が大切と感じます。患者さんの為にも自分の為にも、学会には積極的に参加したいと思えます。



テーマは「てんかんのサイエンスとアート」

